

会 議 録

会 議 名	平成 29 年度 第 1 回みのかも定住自立圏構想共生ビジョン懇談会
日 時	平成 29 年 5 月 25 日 (木) 午後 1 時 30 分～午後 3 時 30 分
会 場	美濃加茂市生涯学習センター201 号室

●参加者（敬称略）

<ビジョン懇談会委員・アドバイザー>

- ・加藤武志（会長）
- ・岸田真代
- ・林 尚史
- ・加藤慎康（美濃加茂市まちづくりアドバイザー）

<実施主体関係者>

- ・坂祝町 【こども課】大野泰孝、山口哲司
- ・富加町 【半布里】井島実香
【教育課】島田崇正
- ・川辺町 【川辺ポートコミュニティ】杉山 洋、山田政廣
- ・七宗町 【若葉会】塚本照通
【でか金倶楽部】中島慎太郎、戸谷良田
【飛騨川流域まちづくりの会】井戸和就
- ・八百津町 【RAINBOW CHILD 2020 実行委員会】西田優太
- ・白川町 【白川町観光協会】藤井宏之 【企画課】今井秀明
- ・美濃加茂市 【産業振興課】山田智也
【農林課】山田夕紀
【土木課】大塚雅之、小栗朋子
【秘書広報課】西村小百合
【環境課】岩田佐江子

<町村定住自立圏担当者>

- ・坂祝町 【総務課】吉田勇彦、野村浩貴
- ・富加町 【総務課】中村泰裕
- ・川辺町 【企画まちづくり課】林 正和
- ・七宗町 【企画課】佐伯義則
- ・八百津町 【総務課政策調整係】日比野将明
- ・白川町 【企画課】山下直紀、藤井悠里
- ・東白川村 【総務課】安江透雄

<美濃加茂市・みのかも定住自立圏推進本部>

- ・【美濃加茂市長】藤井浩人
- ・【みのかも定住自立圏推進室本部（美濃加茂市市民協働部長）】大畑英樹
- ・【定住自立圏推進室】渡辺春文、佐合芳文、村雲洸佑、川上明里

- 議 題
1. 開会（あいさつ）
 2. 事業担当者会議での結果報告
 3. まとめ
 4. 閉会

●発言内容（要約）

< 1. 開会 >

（美濃加茂市長）

本日はあいにくの雨の中、足をお運びいただきありがとうございます。本日は各事業の報告及び、それを懇談会委員の皆様にも評価していただき、次年度に向けた取り組みに向けてのご助言をいただく場です。

近年のビジョン懇談会は、マンネリ化してきているのではないかと危機感を覚え、事務局に意味のある会の開催を指導しておりますところですが、その取り組み状況を私自身が見たり、市民の声を聴いたりする中では、大きな成果を上げている事業が出てきており、嬉しく思っております。総務省からの意見も参考にしますと、専門的な知識を持った人がいるとの評価も受けています。この事業がますます大きく花開いて進捗していくよう、皆様にご協力をお願い申し上げます。

事業を実施している皆様の中には、行政が一步踏み出せば、もっと進みやすくなると思っている人が居るかもしれません。私も、1つの事業の中で行政がやるべき事がいくつかあると思っています。

先般、加茂郡の各首長と懇談をする機会がありました。この圏域の人口が減少している事に対し、お互いに危機感があることを再確認しました。また、近年、市内の高等学校の定員割れが続いており、学生の流出に対しても心配する声がありました。

私たちの圏域には、様々な問題や課題がありますが、その課題について皆で共有できることがこのビジョン懇談会の良さです。私たち首長も、行政として取り組むべき事には予算をつけて形にしていきますし、そのためにやるべきことを事務局に実施するよう伝えていきます。

定住自立圏事業が住民の皆様にも理解してもらい、将来あるべき姿としてその力を発揮するよう、具体的なビジョンを示し、一緒に取り組んでいきましょう。

懇談会委員の皆様におかれましては、本日も長時間の会議となります。どうか圏域が良くなりますよう、ご指導とご高配いただきますよう、よろしく願いいたします。

（事務局）

本日の会は、1事業あたり7分30秒を予定しています。担当者には、2分程度で事業の報告をしていただき、その後、ビジョン懇談会委員との協議時間を5分程度設けます。2分経過した時点でベルを鳴らしますので、ベルが鳴ったら速やかに報告をまとめていただき、1事業全体を通して7分30秒程度となるようご協力をお願いいたします。

それでは、司会をビジョン懇談会長の加藤武志氏へお願いさせていただきます。

（加藤武志会長）

昨年度とは違い、今回の会は「口の字」型でかしまった雰囲気ですが、いつもどおり忌憚のない意見交換ができる会には変わりありませんので、皆様ご意見いただきますようお願いいたします。それでは順に進めてまいります。

< 2. 事業担当者会議での結果報告 >

■ みんなで子育て応援事業

【報告内容】

- ・平成28年度は、ママ業のスキルアップ講座と託児ボランティア育成講座を行った。
- ・平成29年度では職場復帰者向けに特化した講座を1つ増やそうと思っていたが、スキルアップ講座の中で職場復帰希望者向けの内容を実施したところ、思いのほか興味を持った人が少なく、昨年度と同じ2つの講座を実施することとした。
- ・今年度は、託児ボランティア育成講座を先に実施することで、講座参加者が実践できる環境を作る（スキルアップ講座参加者の子どもを、託児ボランティア育成講座参加者が預かる仕組み）。
- ・今後はSNSやブログでの情報発信を活用する。
- ・託児ボランティアの人員が増えて活動基盤が安定したと判断された場合、両講座の開催回数を年単位で調整して行っていく予定。

【協議内容】

（岸田委員）

講座名（※）だけで講座内容がよく分かりづらいと感じました。託児の方の講座は、無償で託児ボランティアをすることができる人材を増やす取り組みだとは分かりましたが、スキルアップ講座の中身がパッと見たら分かりづらいと思います。

（※）「やってみーひん?! ママ! パワーアッププログラム」「やってみーひん?! 託児ボランティアプログラム」

（担当）

ママ業スキルアップ講座は、主に子どもの栄養学や家計のやりくり、時短レシピなどを実習する内容で、家事・育児・職場復帰を目指す人のサポートとなるような内容の講座となっています。

（岸田委員）

1つの講座の中で2つの分野があるのなら、やはり講座名の表現を考えた方が良いと思います。この事業が何を狙っているのかを明確にしないと、何となく実施して終わってしまう可能性があります。

■ 「織田信長の東美濃攻略」を活用した歴史PRマンガ作成事業

【報告内容】

- ・平成29年3月にマンガが完成し、今年度は普及させて魅力を広めていく。その方法として、講談化して学校等で上映することや、所縁のある地域をめぐるツアーを開催しようと企画している。
- ・大垣共立銀行から、名古屋にあるハーモニープラザで歴史PRセミナーを継続的に開催してみてもどうかとの提案をいただいた。昨年度も観光関係でPRをしたが、圏域とその周辺までが反響の限界だったので、都市圏へのPRに向けた拠点がある事は心強く、待っているだけではなく積極的にいきたいと思う。
- ・今、このように広域的な波及効果があるので、事業は今年度で終わる計画だが、PRについて継続的に行えたら良いということを担当者同士で共有した。

【協議内容】

(林委員)

ツアーによって圏域に人を呼び込む動きは良いと思います。視覚化できたことでセミナーの話も出てきたことから、良い流れになっていると感じます。

あとは、他言語化を目指すことが良いと思います。今後、日本の人口の3分の1となる4,000万人の外国人が日本へ訪れるというデータが出ています。ぜひ取り組んでいただければと思います。

(加藤慎康氏)

マンガの作成作業を見せていただきました。資料収集の際に参加した学芸員の話を知ったのですが、参加できて本当に良かったと嬉しそうに話されていました。この事業で得た人脈は、今後も活用していただきたいです。

このマンガを市町内の小中学校へ配布したことで、このマンガが図書館ボランティアをされている人の話題にあがっています。ボランティアベースで小学生に読み聞かせしてもらう機会があると、各地に広がりやすくなると思います。

(岸田委員)

内容は良かったのですが、表紙が少し硬い気がします。増刷される際は、そのあたりも気かけられると良いと思います。

(加藤武志会長)

成果指標の、84.04という数字の単位は何でしょうか？

(担当)

マンガに対して「良い」などの満足度を集計した数値で、単位はパーセントです。マンガの中にハガキを折り込んでおり、マンガを手にした人にアンケートを実施しました。

(美濃加茂市長)

美濃加茂市内でも好評です。今後は次のステップとして、マンガやこの歴史を知らない人も、知ってもらえるような目標に設定し直していけると良いと感じました。

■ボート王国プロジェクト事業

【報告内容】

・昨年は地域の祭り等に参加して、エルゴメーターを設置し、疑似体験を通してボートの普及活動を行った。今後は、陸上での疑似体験ではなく、水上での体験イベントなどを考案しているが、安全面の確立に悩んでいる。

・美濃加茂市、川辺町、八百津町などのボート部や関係機関の関係者を集めて、競技者の質のレベルアップに向けて取り組んでいる。

・平成29年度は関係市町内でのスポーツイベントを通して、ボートの周知活動を行う予定。

【協議内容】

(岸田委員)

成果指標である研修参加者数の、圏域内外の内訳を教えてください。

(担当)

この指標は、年間12回程度開催するイベントの、のべ参加者数です。川辺町は小さな町で中学校のボート関係者は30名程度しかいません。その中で周知していく事はかなり範囲が狭いので、人数の少なさについてはご容赦いただきたいです。

(岸田委員)

そうではなく、圏域内外の参加者の割合を把握する必要があるのではないかと思います。

(担当)

そうですね。外に向けたPRとして、アスリートを招いて幅広い世代に興味を持ってもらえるよう、工夫したいと考えています。

■ 野外フェスティバルからはじまるあたらしい地域コミュニティ事業

【報告内容】

- ・ 8月11日に向け、すでにチケットの販売がはじまっている。
 - ・ 名古屋や岐阜の企業から協賛をいただいた。
 - ・ 今年度はフェスを使った町のPRに挑戦する。具体的には、昨年度に美濃加茂市とサッポロビールがタイアップして製作した、「美濃加茂ポールスター(※)」をフェスで提供することや、今年度はフェスの開催日が土日と連なることから、美濃加茂市と八百津町を回るツアーを企画していく事で、目的を果たしたい。
- (※) 山之上町産の果実ジャム(梨など)を、スパークリングワインに混ぜた新感覚のご当地カクテル。

【協議内容】

(加藤慎康氏)

泊まり込みや町のPRについての工夫を同時に考えていることは、良い流れだと思います。

美濃加茂市のまちづくり課としては、このフェスをきっかけにRAINBOW CHILDの西田氏とのつながりが生まれ、名古屋にある西田氏のお店にポールスター(お酒)を置いていただくことができ、相互にとって良い関係になりました。

昨年度の参加者数は1,600名とのことですが、今年度はそれよりも増えると思われます。今後もこのつながりを通してPRを一緒にやっていきたいと思っています。

(岸田委員)

報告書で、今後空き家バンクのPRを行いたいとありますが、フェス内で移住定住に係わる相談会を実施しているのでしょうか？

(担当)

各市町村の定住の専用ブースを設けています。どのくらい反響があるかは、私には分かりかねます。

(八百津町)

昨年度実施し、ブースでは数名の相談者がいました。

(美濃加茂市長)

例えばこのフェスを名古屋近辺で実施すれば、目標の2,500名は簡単に越えられるかと思います。しかし八百津町で行うと1,600名になってしまいます。平成27年度からフェスを開催していますが、担当には、このハードルの原因が見えてきているのではないかと考えています。どのような原因があると思いますか？

(担当)

単純に、八百津町へのアクセスが悪いことが挙げられます。昨年度は電車を利用した参加者は少なく、自家用車で来場した人ばかりで、駐車場が足りない状況になりました。このことから、名古屋から美濃太田駅へのアクセスが理由として挙げられると思います。

あとは、この場所へ来たことが無い人が多く、距離感が分からないと思う人が多くいました。しかしこれは、参加を繰り返していただくことで解消できる要素であると思います。

(加藤武志会長)

昨年私もフェスに参加しました。リピート性が高いイベントだと感じましたが、リピート率の割合は把握されていますか？ また、新規参加者を取り込む工夫はどんなことをしていますか？

(担当)

リピーターの把握はSNSで行っています。その投稿内容を見ると、新規参加者については、クチコミによって広がっており、今年もコツコツ増えているようです。

■みのかも魅力発信！名古屋交流拠点事業

【報告内容】

- ・名古屋パルコを拠点に事業を展開しており、昨年度は秋と春にプロモーションと体験プログラムを実施した。春のプロモーションでは名古屋圏で発信力の高い人物と協力してツアーを開催し、多くの人に参加していただいた。雑誌「Kelly」の編集者も同行し、Kelly 6月号に掲載することもでき、その効果を実感している。一方、秋に開催した特産品の販売については効果が少ないことが分かった。また、酒蔵に係わるイベントは良い評価をいただいている。
- ・平成29年度は体験プログラムの質を向上させ、圏域の魅力を体験できるものの作り込みをしつつ、名古屋圏住民の参加を促し、圏域の認知度の向上と地域の良さを知っていただくために事業を展開していく。

【協議内容】

(林委員)

HPを確認すると、魅せ方が良いと思います。地域資源と魅せ方とターゲットについての不一致をよく見かけるのですが、スキカモは伝えたい事が明確となっており、とても良いと感じます。

ただ、成果指標が本来の目的ではないように思えます。イベントの来場者数のように、具体的な成果だと良いと感じます。

(岸田委員)

私も成果指標については、本来の目的からすると不一致のように思います。

(担当)

そうですね。私もそのように感じます。プロモーションの参加者は流動的なので指標に不向きですが、体験プログラムの参加人数やアンケートの集計をしているので、それらに変更可能であれば変更したいと思います。

(事務局)

事業の途中で目標値が変わることについては、問題ないと判断しています。

(加藤慎康氏)

春のツアーイベントでは、一緒に企画した著名人等が、丁寧に事前の取材をしていたと聞いています。今後この縁を大事にし、頼っていただきたいと思います。

春のスキカモキャンペーンで限定販売したHAND製の「スキカモグラノーラ」は、大変好評でしたが、それが生産者側に伝わらず、追加のオーダーが出来ない事態になっていました。このような事を、内々で調整できると良いと思います。

酒蔵をめぐるツアーは私も参加しました。とても好評で良い内容でしたので、今後はこれを名古屋でも楽しめる工夫（名古屋でもこの酒が飲める等）があると良いと思います。

また、パルコで開催したショップの魅せ方について、人をどう引き止められるか、一緒に考えていく事ができたら良いと思います。

■里山再生プロジェクト事業

【報告内容】

- ・この事業は森林環境税で実施する山の整備事業の補完事業として、里山整備への管理意識向上と伐木等の処理を行っている。昨年整備を実施したことで、その地域の人々が里山への夢を語れるようになった。
- ・整備時に伐採される竹をチップに加工して堆肥を作っており、それを地域住民が活用しているが、先日企業からマルチを使う代わりに試して使いたいとの要望があり、本日、1トンの竹チップを運んできた。通常マルチはビニール製なのでゴミになってしまうが、この竹チップであれば土に戻るので、エコ的な活用としても期待できる。
- ・竹チップ肥料を使ったコメ作りを地域の農家の力を借りて行っており、今年の収穫を期待している。
- ・山の整備をしたことで、昨年度の鳥獣被害の被害額が大きく減った。里山整備の効果の1つとして捉えている。
- ・伐木の活用として、今年度は薪の販売を楽天市場（インターネット販売）で出来ないか考えており、楽天市場関係者との協議を目前に控えている。

【協議内容】

(岸田委員)

多くの住民が山の整備に係わっている事がよく伝わりました。良い取り組みだと感じます。参加者はどのくらいの人数がいるのでしょうか？

(担当)

山の整備は集落単位で行っています。だいたい10名～20名程度が1つの単位で、2～3集落の人々と共に整備を行っています。

(林委員)

山林について熟知していることが分かり、参加者も多く感心しています。ですので、次のステップとしては、地元だけでなく市外や県外からも参加者の呼び込みが出来れば良いと思います。楽天は楽天トラベルという旅行分野もあるので、今後はそういった目線を取り入れた情報発信を行うと良いと思います。

(加藤慎康氏)

整備された山の様子を実際に見ましたが、本当にきれいになり、地元の人が誇りに思っている感じがしました。ならばこの様子をぜひ外の人に発信してほしいと思います。見どころなどを押さえて発信することで、観光へつなげられる要素になります。

(担当)

そうですね。今はまだ整備途中ですので効果は薄いかもしれませんが、整備が完了すれば「きれいな里山」というキャッチフレーズで、人を呼び込めると考えています。

(林委員)

せっかくなので、整備前と後を動画として記録をし、アーカイブ化することも検討されると良いと思います。動画の編集をセンスの良い企業に任せれば、観光用の資料や情報発信等に活用できると思います。

(岸田委員)

皆さんの意見に加え、私はこの事業に参加したいと思う人を増やすことも大切だと考えます。

■ K i s o ジオパークにぎわい創出事業

【報告内容】

- ・川のリスクマネジメント事業は、参加校が少なかったものの再度参加したいとの声があり、今年度は6月17日に「川と森の勉強会」を中之島公園で開催する。参加校が増えない要因として、年間行事決定時期よりも後に、学校側へ説明に来校していたことから、今後は説明時期を踏まえた計画が必要だと分かった。
- ・堤防の利用者が、ソーラーライト照明を設置したところから増えており、設置に効果が出ていると思われる。今年度に2基、来年度に2基設置予定。
- ・情報発信力が苦手であるため、PVを製作して事業の情報発信をしていきたいと考えている。そのために公園の条例改定や市民活動団体との連携強化を図りたい。

【協議内容】

(岸田委員)

手元に「川と森の勉強会」のチラシが届いていますが、作り込んでいて、思わず中身を深く読んでみたくなりました。報告書にドローンの活用について記述がありますが、具体的にどのようなことを予定しています

か？

(担当)

ドローンの飛行可能エリアは法律でかなり制限されていますが、中之島公園の一部に飛行可能エリアがあり、充電できるような電源もあります。川のそばなので騒音問題もクリアでき、実際に名古屋からドローンを飛ばしに訪れる人もいます。このことから、ドローンに触れる事ができる体験会や大人向けのドローン飛行レース等を開催していきたいと考えています。(子どもに操縦させるのではなく、子どもに知ってもらうことを主目的として開催したい)

(加藤会長)

成果指標がイベントの開催数ですが、例えばイベントの参加者数やアンケートの集計をしていますか？

(担当)

はい。例えば12月に開催するスイーツウォークはのべ4,000人が参加しています。指標がまちづくりに関する取り組みをカウントするものなので、ボランティア団体を増やすことも目標になるかと思います。町の活力を上げるため、活動人口を増やすことも事業の価値となると考えています。

(岸田委員)

ボランティアで参加される人の中で、県外から参加される人はいますか？

(担当)

今は、県内のボランティアが殆どです。しかしSNS経由で増えており、今後は「人」にスポットを当てたPVを作る予定でいるので、この調子で増えて行けばと思います。

(岸田委員)

そうですね。県外在住のボランティア参加者が増えることで、より定住に結びつきやすくなると思います。

■おんさいEXPO事業

【報告内容】

- ・昨年度は美濃加茂市の日本昭和村と富加町のタウンホールとみかの2会場を利用し、鳴子踊りのステージイベントと地域グルメの出展ブースを設けて踊りの祭典を実施した。県内外から37チーム(1,114名)の踊り参加者を含む約10,000人が来場した。
- ・今年度は目標値を来場12,000人とし、踊り参加者を50チーム、会場を3会場(美濃加茂市会場を昭和村の園内2か所へ増設)に増やすことを計画している。昨年度の実績と課題から不足している部分を達成できるよう取り組む。
- ・昨年度は役割分担が出来ていなかった為、今年度は半布里が中心となって実行委員会を運営する。
- ・名古屋の祭典「日本ど真ん中まつり」と連携し、どまつりを通しておんさいEXPOや圏域をPRする予定。

【協議内容】

(加藤会長)

今年度は日本昭和村の園内を会場にするとのことですが、通常園内に入るには入場料が必要となります。それはどうなるのでしょうか？

(担当)

おんさいE X P Oのチケットが、園内入場料の優待券となるよう工夫します。現在、通常830円の入園料が500円になるという特典を付けられないかと、昭和村と協議しています。

(加藤慎康氏)

せっかく1,200名の踊り子が圏域に訪れてくれるので、この方々に対し「この地域に対するイメージが変わったか」等の追跡調査が出来ると良いと思います。例えば、会場から会場への移動中、踊り子と市民が触れ合う機会があり、話をすることができたなら、親しみを持っていただけるのではないかと思います。

このように演者だけを呼ぶのではなく、演者と観客のつながりを意識できる工夫を考えられると良いと思います。そうすれば、イベント後でも、この地へ訪れてもらいやすくなるのではと考えます。

(美濃加茂市長)

踊り子の中には遠方から来訪される人がいらっしゃるので、宿泊や食事などの対応も出来ると、町の活性化につながるのではないかと思います。しかしそこまで半布里が行うことは大変ですので、事業の事務局が行政としてサポートする必要があると考えています。事務局は、昨年の実績を基に地元の商工会と連携し、町にお金が落ちそうなところと繋いであげられると良いと思います。

■名古屋市民をみのかも定住自立圏域へ招くツアー事業

【報告内容】

- ・昨年度は9つのツアーを実施した。ファミリー層、婚活希望者、大学生を対象としたツアーで、のべ126名が参加した。婚活ツアーでは1組が結婚を前提に付き合う事となり、ファミリー対象のツアーで参加した親子が、再びこの地へ来ていただくことができた。
- ・今年度は婚活希望者、就農希望者、学生を対象としたツアーを行う。中でも、白川町は県内で有数の有機農業の先進地であり、今年度は3名が新規就農者として来町している。
- ・名古屋のオアシス21で開催されている野菜村市場(オーガニックファーマーズ朝市村)の来場者の中には、新規就農を目指している人も多く訪れている。そうしたことから、名古屋圏で就農を希望している人に向け、白川町へ来てもらえる仕組みを作りたい。

【協議内容】

(岸田委員)

本日の会の中で、昨年行った9つのツアー内容がわかる資料があると良いと思いました。

名古屋でも婚活イベントを多く開催しているので、そういったところと連動してツアーを企画しても良いと思います。

名古屋のオアシス21で開催している野菜村市場との具体的な話は、どこまで進んでいるのでしょうか？

(担当)

定住の事業とは関係なく、白川町へやってくる新規就農希望者は、このオアシス21の野菜村市場で就農に

関する相談をされています。その中で白川町を紹介していただき、実際に白川町へきていただいているという実績もあります。そうしたことから、今回、就農希望者をツアー事業に参加してもらえよう誘導し、より定住化を目指そうとしています。

(加藤慎康氏)

就農者向けの体験ツアーを実施する前に、特集やトークイベントを打ち出した方が、より効果が期待できると思います。今回、就農面で似た性質をもつ東白川村も参加したので、併せて実施できるとより深く定住化を図れると考えます。

ツアーのチラシですが、チラシのデザインを農家の奥さんを筆頭にした農業関係者をお願いしてみるのも良いかもしれません。なぜなら、彼らはより農業に関する目線を持っていて、参加者と感覚が近い状態になっているからです。

(担当)

新規就農者は、いろんな職業を体験している人が多いので、実際にチラシデザインを頼んで作っていただいています。

■ 生物多様性地域連携促進事業

【報告内容】

- ・環境フェアの開催と生物の基礎調査の2柱の事業を行っており、昨年度の環境フェアではアンケートに答えた93%の参加者が、また来たいとの回答であり、イベントとしての満足度も高いことが分かった。
- ・今年度は新事業として「生物多様性地域戦略プラン(※)策定」へ向けての取り組みを行う。せっかくなので広域で実施できないかと各町村の主管課長へ投げかけたところ、合意を得ることが出来たため、今年度より定住事業として実施する。

(※)生物多様性地域戦略プラン…生態系の保全と、それを産業や文化に活用していく事を、年単位で定めたプラン。生物多様性基本法に基づき、国が各自治体へ努力義務として求めている。広域で実施しているのは全国的に珍しい。

【協議内容】

(岸田委員)

基礎調査はどんな人が実施しているのでしょうか？

(担当)

美濃加茂市と加茂郡町村の住民による市民団体「自然史研究会」のメンバーによって、実施していただいています。県内の大学教授や教員も在籍している50名程の団体です。

(岸田委員)

調査に県外の人が入ると、より知識が深まると思います。ぜひ広めてほしい取り組みですので、圏域住民への啓発だけでなく、圏域外へどんどん発信してほしいと思います。

(担当)

そうですね。圏域内の住民はこの自然が当たり前になってしまっているのです、そういった意味で圏域内への発信も重要だと感じています。ですので、引き続き圏域の内外へ情報を発信して、生物多様性への理解を深めていただきたいと思います。

(加藤慎康氏)

圏域外から調査員を求めるのであれば、そういった人向けの研究ツアーの受け入れを企画しても良いと思います。例えば、調査員を受け入れていただける地域に住む人も調査に同行してもらい、その地域に生息しない生物を野に放してはいけない等、生態系を崩さないように地域の人をお願いしながら実施できると良いと思います。

(加藤武志会長)

変わった動植物があるから、その地へ訪れる人も実際に居ると思います。動植物に限らず、地層なども含め、概要版(サマリー)があると周知しやすくなると思います。その際、子どもでも理解しやすいような短い言葉等を使って、分かりやすく作成できると良いと思います。

■地域情報放送事業

【報告内容】

- ・この事業は、各市町村が圏域内の情報をそれぞれ発信することで、住民同士のつながりの強化と情報の共有が出来るという効果が期待されている。特に、昨年度はイベント告知や会場からの生放送を行ったことで、放送への関心を持ってもらい、サイマル放送用のアプリケーションのダウンロード数が、昨年度から倍増した。
- ・今後は引き続き、番組編成時に内容を見直し、魅力ある情報を発信するよう計画していく。

【協議内容】

(林委員)

アプリケーションのダウンロード数の増加は良い流れだと思います。魅力ある番組を各市町村が製作したため、という解析でしたが、ほかに思い当たる要素はありますか？

(担当)

各市町村でホームページや広報誌への掲載を行っていることや、FMからの自社努力で、冊子等を商業施設へ配架したことも要因なのではないかと推測しています。

(林委員)

この方法論が確立できれば、この事業以外にもデジタル化できる様々なサービスに、今後応用できそうだと感じました。

(加藤慎康氏)

4月から「シンヤスさんぽ」に出演することとなり、出かける先々で声を掛けていただけるようになりました。私のように収録の体験をする人が増えると、リスナーももっと増えていくのではないかと思います。

(岸田委員)

各番組が、どのくらいの人に聞いていただいているのかを把握されていますか？

(担当)

アンケートを取っていないので今のところは把握できていません。これは今後の課題として認識しており、各市町村でアンケート等を取るように対応したいと思います。

(加藤会長)

この放送は、リアルタイムでの視聴者数が分かりますか？

(担当)

番組を放送するFMららにたずねたところ、把握できない状況でした。アプリケーションのダウンロード数も、実際はどこでダウンロードされているのかを追跡調査することが出来ませんでした。

(美濃加茂市長)

担当課が直下の部署なので、少し厳しいことを言わせて頂きます。

今回の会議資料として手元にある「報告書」では、この事業の課題が「特になし」になっています。ですが、今の意見のように、多くの課題が出てきています。行政の行う事業として、内容の洗い出しをきちんとしていただくことを望みます。

さて、私も「シンヤスさんぽ」を視聴したいと思っていますが、これまでに1度も聞けずにいます。様々な人と話をする中で、私と同じように聞きたいと思っても、その時間に聞けないという声もあります。ですので、例えばこの音声をYOUTUBE等にアップロードするのはどうでしょうか。無料で利用できる上、再生回数もカウントされます。時々何かの話題がきっかけで、既存の動画でも再生回数が伸びる事もあります。視聴者の中から実際にこの地へ訪れてくれる人も出てくるので、美濃加茂市だけでなく、ぜひ他の町村も試していただければと思います。

■交流の場の提供とレッキーマラソンコース沿いの環境整備事業

【報告内容】

- ・民家の無い区間のマラソンコース沿いの整備や、河川の環境整備を行った。
- ・美濃加茂市三和町の「ホタルを守る会」と共に、三和小学校と神淵小学校の交流事業を実施した。
- ・環境整備によって生じる伐採木の運搬と処理に苦慮している。現在はメンバーの個人の所有地に置いている状況である。
- ・平成29年では、ホタルの餌となるカワニナの養殖場を作り、更なる交流の場となるようにしたい。

【協議内容】

(岸田委員)

成果指標が主旨と合っていないと思います。マラソンの参加者数や会員数など、効果を図れる目標とした方が良いと感じます。

(担当)

推進室からもその指摘は受けており、今後はマラソンの参加者等からアンケートを取れるように検討しています。

(美濃加茂市長)

課題の1つとして団体のメンバーを増やすことが挙げられていますが、現在の状況はどうですか？

(担当)

実は今年の4月に1名が加入してくれました。これで12名の体制となります。とはいえ、今回加入して下さった人も含めて現役を退いた方ばかりなので、本音を言えば、若い人に参加してほしいと思っています。

(加藤会長)

伐採木の運搬についての課題がありましたが、同じく伐採作業を行っている里山再生プロジェクトへ相談してみてもいかがでしょうか？

(担当)

実は既に1回、伐採の見学をさせていただきました。伐採木をチップにする取り組みは良いと思いますが、破碎機の値段が高額だったので悩んでいます。

(岸田委員)

破碎機を借りることはできないのでしょうか？

(担当)

実はそこまでの話はしていませんでした。

(美濃加茂市農林課)

その時は、薪と一緒に作れないかと話していました。

■でか金を媒体にした地域づくり事業

【報告内容】

- ・圏域内の公共施設や福祉施設への水槽の設置が進み、新聞やテレビ等メディアに取り上げられることで、でか金を通して七宗町のPRをすることができた。
- ・でか金の水槽の管理や生体の管理（病気への対応等）が、設置した施設では対応しきれないところや、団体の主管メンバーが各自仕事を持っている為、販売体制が確立できないことが課題となっている。

【協議内容】

(岸田委員)

成果指標が水槽の設置数となっていますが、これは定住を目指す指標でしょうか？ その関係性を教えてください。

(担当)

この事業は交流人口の増加を目的としていますので、定住に向けた設定はこれからとなります。

(岸田委員)

圏域外の人を呼び込むための設置数ということであるならば、設置の場所が重要な要素になると思います。

(担当)

そうですね。現在、設置場所の7～8割が圏域内になっています。各地のイベントや、圏域外住民が立ち寄る施設（日本昭和村等）で開催されるイベントを活用し、アピールに力を入れたいと考えています。

(林委員)

観光の目玉になるような設置場所はありますか？

(担当)

現在設置している中では、加茂総合庁舎や加茂警察署のほか、団体の事務所である七宗町の梅村酒店であれば、常時展示しています。

(林委員)

観光資源ということであれば、例えばカフェなどの分かりやすい場所に設置されていると、立ち寄る人も増えると思います。聖地やランドマークとなる設置場所を作り、情報を発信すると良いと思います。

(担当)

実は、七宗町の道の駅に「石の博物館」という施設があり、そこに設置する方向で、施設を管理する七宗町側と協議しています。また、6月には、美濃加茂市のシティホテルに水槽を設置していただけることとなりました。

(美濃加茂市長)

今、関東で「アートアクアリウム」が話題となっています。でか金も戦える要素を持っていると思うのですが、アートアクアリウムの「魅せ方」について林委員はどう分析されていますか？

(林委員)

昨年、日本橋の三越が開催したアートアクアリウムは、過去最高動員を記録したほど人気が高いイベントでした。そこまで人を惹きつける要素は、芸術性もさながら、金魚の生体や環境飼育、運搬方法に至るまで、かなりの知見を持っているためだと思います。このあたりを熟知することが、あの魅せ方に繋がっているのだと考えます。

(美濃加茂市長)

わかりました。そういうことならば、水槽は四角にこだわらず、水槽に予算を付けて「魅せ方」を大切にすると良いものが出来ると思います。

(林委員)

今ではありふれた手法となってしまいましたが、それにプラスしてプロジェクションマッピングも使ってみ

ると、全国的に食いつきが良くなると思います。

(岸田委員)

そこに、でか金の品評会を絡めると、更によくなると思います。

■「龍神さんの棲む箱庭のまち」まちづくり事業

【報告内容】

- ・おたすけ部会では初年度47件だったお助け要望が、昨年は73件まで増え、今後もクチコミで増えていくと予想される。需要はあるが実行側の人員数にも限界があるため、なかなか大きく広げることは難しい。
- ・おもてなし部会では美濃加茂市三和町と協力して納古山の整備を行っている。昨年度は七宗町側の登山道に看板を設置できた。今後も登山者数を増やせるようにしたい。

【協議内容】

(岸田委員)

平成27年と平成28年の指標と実績の値が同じことが気になります。

(担当)

山の利用者数は正確に集計することが難しく、推測を含んだ値です。成果指標がこれで適切なのかは、正直悩んでいます。

(岸田委員)

確かに登山者数は1つの指標に成り得ますが、自分たちが集計できないものを目標値にしても仕方がないと思います。先ほどの報告では、おたすけ部会の活動実績が明確になっていました。この実績を含めた、地域づくりの成果として見えて来るものを数字に挙げるべきだと思います。

(加藤慎康氏)

昨年度の終わりに、皆さんと三和町と一緒に、両登山道から納古山を登るイベントを実施し、私も美濃加茂市側として参加しました。良い取り組みだとは思いますが、ただ登るだけではなく、もう1歩、お互いがにぎやかに出来る工夫があったら良かったと感じました。せっかく共有する資源があるので、両市町が膝を突き合わせて話し合い、事業が進捗して行けると良いと思います。

(美濃加茂市長)

やはり成果指標の設定は見直した方が良いと感じます。その方が、活動を頑張れる目標にもなりうるからです。

さて、この度美濃加茂市の三和町では、キャンプ場のリニューアルを町の人たちと一緒に行いました。今後は外からの来場者が増えることが予想されます。「魅力ある町」を伝えられるのは活動している皆さんですので、お互いに刺激や情報交換をし合って、実行して行ってほしいと思います。

(担当)

わかりました。今まで山のこちらとあちらで交流が無かったので、この事業を機に交流を深めていきたいと

思っています。

<3. まとめ>

(加藤武志会長)

皆さん、ありがとうございました。

本日の内容を振り返ると、成果指標に対する意見が多く挙げられました。元々「定住自立」がテーマとなった事業ですので、この狙いと目標が合っているか、集計し検証するためにふさわしいのかを、どの事業ももう一度立ち返って考えて行けると良いと思います。

確かに楽しく実施していく事は大切なことですが、活動をすることによってつながる先を考え、実施していく事ができると良いと感じました。

(加藤慎康氏)

以前はビジョン懇談会委員としてこの場に参加しましたが、今は美濃加茂市に入ったことで、より現場を体験できるようになりました。一緒に出来そうなことを相談していただき、どんどん声を掛けていただければと思います。

(林委員)

本日の会はいつもと違って文字が多かったので、可能であれば次回からは写真などのビジュアルがわかるものを用意していただきたいです。すべての事業を見聞き出来ていないので、特にビジュアルにこだわる事業については、より議論を深める為にもそういった工夫をしていただきたいと思います。

(岸田委員)

林委員と同意で、写真や内容の詳細があると良いと思います。

本日の会では、少しずつ事業の構想が具体化し、これまでの積み重ねが実感できることによって、皆さんの事業の中身がより理解できるようになってきました。引き続き頑張ってください。

(美濃加茂市長)

本日も指標の話がありましたが、やはり「定住自立圏」の事業であるため、実行側もワクワク楽しいと感じる事業をしつつも、定住に関しても賛同者を増やしていただきたいと思います。

また、定住とは外から人を呼び込むことだけではなくありません。地域で育つ子どもたちが、町の良さを知る事も定住につながる要素です。これからもこの町に住み続けたい、また帰ってきたいと感じる事を実施していただき、数十年後にこの町がどうなっているか評価されることを意識して、取り組んでいただきたいと思います。

<4. 閉会>

(市民協働部長)

私は第2次共生ビジョンの立ち上げから携わっています。はじめは実際に取り組んでみて課題も多く悩みもありましたが、3年目となり事業の成果も見えてきました。今後もどうか、定住自立圏の目的達成の為、事業に尽力していただきたいと思います。

事業の広がりと共に連携出来る事も増えました。この取り組みで得た人脈を生かし、ステップアップを目指してお互いに情報提供を行い、事業の幅をより広げてほしいと思います。

ビジョン懇談会委員の皆様におかれましては、事業の立ち上げからお力添えをいただいております。改めてお礼を申し上げますと共に、第3次共生ビジョンの策定に向けても、どうかご指導いただきますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

(終了)